

WEEKLY

一宮

題字 PG 安野謙次



重文「陵王」面 真清田神社蔵

Rotary
Ichinomiya



The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日
●事務局 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話(0586)24-1931 ☎491-0858



世界に希望を生み出そう

URL:<http://rc138.org> E-Mail:rc138@lily.ocn.ne.jp

2023年8月31日 第3561回例会

会 長 足 立 誠 会長エレクト 佐々木久直
幹 事 富 田 隆 裕 副 幹 事 鶴 飼 雅 弘
副 会 長 山 上 哲 司 会報委員長 野 村 和 弘

プログラム

卓 話
前田 泰道氏
(紀三井寺貫主)

テーマ「仏教には、もっとわかりやすい仏教がある」

ロータリーソング「四つのテスト」

第3560回例会の記録
2023年7月24日(木)

会長挨拶

足立 誠

ロータリアンの皆さん、「お盆」休みは如何お過ごしでしたでしょうか。今回の「お盆」にやって来ました台風7号は、私たち日本人の習俗(帰省・国内外旅行等)を直撃致しました。「お盆」に雨が降って珍しい、と言われた年もありましたが、台風直撃は大変珍しいことでした。そこで想起されますのは、私も含め年配の方々にとっては「伊勢湾台風」(1959年、昭和34年)です。台風の規模と言ひ、コースと言ひ当時の恐怖を呼び起こさせるものでした。

さて、2023-24年度RIの提唱している項目の1つに「危機管理」があります。私たちの認識は案外曖昧ですがRIは2つに峻別して説明しています。

- ① 危機的状況が生じないように最善を尽くすこと
- ② それでも危機的状況が生じたなら、最善の対処をすることとしています。

言われて見れば至極当然の事柄ですが、①と②に別けることによりわかり易く思います。戻りまして「伊勢湾台風」、「濃尾大震災」(明治24年、1891年)、「東日本大震災」(2011年、平成23年)という大災害を考えて見ますと、「伊勢湾台風」については台風の進路の予報の精度の低さや直前の好天(①)が被害を大きくし、「東日本大震災」については過去の津波に対しての教示が、時間と共に希薄化したこと(①)を挙げることができると思います。時と共に忘れ去られがちな過去の災害ですが今一度「災害大国日本」について私たち一人一人が一考することが、これからの災害に対処する上で大切であると強く感じました。

次回の予定
卓 話
鬼頭秀幸君
(地区職業奉仕委員長)

ロータリーの友8月号紹介

古林幸二

横組み7頁、会員増強・新クラブ結成推進月間で、「生涯の友が見つかる場所へ」というテーマで、全国各5人のRCメンバーから入会后、どのようないい出会いがあったのかを紹介されています。8頁の川越RCの小城会員は野村證券の支店長で、19年に川越に着任し川越RCに入会そこで当地で最も大きな神社(川越氷川神社)の宮司・山田会員と出会い、意気投合して川越の良さをもって知ってもらおうと町全体の若手を対象とした「川越若手社会人会議」なるものを立ち上げたそうです。職業の枠をこえるばかりか、年齢も、性別も、また国籍までも越えて素晴らしい出会いのチャンスがあると実感するとともに、更に皆様と交流を深めて自身の成長に繋げたいと思いました。16頁からは、5月にメルボルンで開催された国際大会のレポートが掲載です。

過去3年はコロナ禍でバーチャル開催、昨年は規模縮小開催という中、今回は4年ぶりの通常開催で、全世界から12,816人の会員が参集し盛大に開催された模様です。日本からは1,534人の登録がありアメリカ、オーストラリアに次ぐ3番目に多い参加でした。「Imagin What's Next」という大会のテーマのもと、希望、夢、変化、そして未来にフォーカスを当てた各参加メンバーからのスピーチが行われていることが記載されております。

縦組みで毎月特集されている「この人を訪ねて」シリーズは岡山西ロータリーの藤原恵子さんの記事です。日本酒・焼酎などを作る醸造機会メーカーの社長さんで、30年近く専業主婦をしていた中、社長だったご主人が52歳で急死した後、自らが社長に就任し、大変苦労しながらも女性目線・主婦目線を活かした経営を実践され、大きく業績を伸ばしている様子が記載されています。今、注目されている女性活躍推進や働き方変革、また健康経営の推進に大いに役立つ内容です。

委員会報告

ニコボックス

梅谷朋志

☆ 都築 健君

修文学院高校インターアクトクラブの海外派遣研修の報告会が本日開催される喜びで。同行ロータリアンとしてインターアクター達の成長を間近に見ることが出来て幸せです。

☆ 野田一郎君

インターアクトクラブの活動報告として、修文学院高等学校の皆さんをお招きする喜びで。本日はよろしくお願ひします。

☆ 吉田真人君

本日は、本学の生徒がお世話になります。よろしくお願ひします。

- ☆ 松田暁昌君
本日、中日新聞尾張版に中3の孫が紹介されました。
- ☆ 豊島半七君
母校が107年ぶりに日本一になった喜びで。
- ☆ 則竹伸也君 山口元彦君 木村亮一君 野杵晃充君
慶応義塾高校がこの夏の甲子園大会で107年ぶりに優勝し、日本一になりました。
その喜びで！！
- ☆ 足立 誠君 富田隆裕君
修文学院高等学校インターアクトクラブ、会長太田美月さん、副会長 松岡みなみさんにお越しいただいた喜びで。本日会議研修報告を聞かせて頂けるとの事で楽しみにしております。

出席報告

現在の会員数	111名
インターアクター	2名
本日の出席数	71名
前々回の出席率	100%

***** プログラム *****

**インターアクトクラブ海外研修報告
修文学院高等学校インターアクトクラブ**

会長 太田 美月さん
副会長 松岡みなみさん



活動報告

毎月火曜日に行われる例会で、活動報告や今後の予定の確認をしています。自分達で決めたテーマに沿ったスピーチや、グループで発表する研究発表をしています。今後の研究発表は、9月に「ヤングケアラー」と「障がい」、1月の例会では「SDGs」と「防災」というテーマで発表する予定です。ロータリアンの皆様へアドバイスして頂いた内容を活かすよう心掛けています。



年次大会では、「ユニバーサルデザイン」をテーマに発表しました。ユニバーサルデザインについてあまり知らなかったのが、定義やデザインのポイントについて調べ始めました。そこで学んだことを応用し、自分達でユニバーサルデザインを作りたいと考えるようになりました。学校へ初めて訪問した場合でも分かりやすいように、日本語だけでなく英語とイラストを表記した「修文ユニバーサルデザイン」を作成しました。その過程を劇で発表できたことは、部員達との結束を高められたので、実のある経験と

なりました。

ボランティア活動としては、佐久島クリーンアップ、ワールドフード、一宮市内における高齢者や障害者等の施設での活動を行いました。コロナ禍で活動できなかった昨年度までとは異なり、活動が再開されたので、今後は更に積極的に活動していきたいです。

海外派遣研修



1日目はマリオットアソシアホテルでの出発式後、成田空港までバスで向かいました。その間、バス内での7時間あまりは班ごとにバスレクをしたり、話をしたりして盛り上がりました。成田空港から飛行機で8時間、ゴールドコーストに到着しました。機内からの朝焼けは、オーストラリア派遣研修での充実した日々の始まりを暗示しているように感じられ、期待に胸が高鳴ったことを覚えています。

2日目の午前中は、オーストラリアの先住民族である「アボリジニ」について学びました。午後は毎日通うことになるUILキャンパスで、ホームステイについてのオリエンテーションを受けました。その後は、待ちに待ったホストファミリーと対面しました。事前にメールで連絡をしていましたが、直接お会いする時はやはり緊張しました。しかし、優しく受け入れてもらったので、家に向かう車内でも身振り手振りを交えながらもコミュニケーションをとることができました。

3日目はUILキャンパスで授業を受けました。オーストラリア固有の動物、食べ物や日常会話についての内容でしたが、全て英語だったので聞き取るのが大変でした。しかし、ゆっくり分かりやすく教えて貰えたので、少しずつ理解ができるようになりました。なにより、オーストラリアの家庭には必ずある「ベジマイト」や「TIM TAM」などのお菓子を試食するという、どれも印象深い授業でした。

4・5日目は休日各ホストファミリーと過ごしました。

- ・ピクニックに行った時には、ホストマザー手作りのランチを食べながら、ホストファミリーと会話ができました。(大田)
- ・スプリングフィールド湖にはルームメイトと出かけたので、スムーズに行けませんでした。2人だけで目的地へたどり着いたので達成感がありました。(大田)
- ・映画館に連れて行ってもらい、『バービー』を見ました。スピードが早くて全てを聞き取ることはできませんでしたが、内容は掴めたので外国で初めて見た映画を楽しむことができました。(松岡)
- ・ゴールドコーストのビーチに行き、現地の人とビーチバレーをしました。一見銅像にしか見えない人に話しかけ、一緒に写真を撮りました。その写真は思い出に残る貴重な1枚となりました。(栗田)

6日目の午前中は授業で学んだオーストラリア固有の動物を実際に動物園で見ました。コアラに触れたり、カンガルーの餌やり体験をしたりすることができました。午後はUILキャンパスで最後の授業を受け、卒業証明書を頂きました。

最終日はホストファミリーとの別れが寂しくて仕方がなかったです。オーストラリアに必ず戻ってくるという思いを胸に、ゴールドコーストを旅立ちました。人生の中でとても濃厚な時間を過ごすことができた研修でした。このような海外での貴重な経験をする機会を与えて頂き、ありがとうございました。